

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹

●編集委員／跡見 裕、畠山勝義、炭山嘉伸、桑野博行、宮崎 勝

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

本号では「乳癌の治療戦略—エビデンスとガイドラインの使い方」と題した特集をお送りした。近年、evidence-based-medicine とガイドラインとが多くの診療分野において取り上げられ、国内においても出版されるようになってきた。このガイドラインの作成において中心の考え方になるのが evidence-based-medicine であり、多くの文献のなかからいわゆる evidence level の高いとされるものを抽出してガイドラインは作成されている。これは大変重要な情報提供であり、その内容を医療関係者は十分に知っておく必要があろう。また、その情報は患者さんにとっても自身の病態からどのような診断・治療が適切であるかをある程度理解するうえで役立ち、主治医と相談する際にその知識があることでスムーズな話し合いに役立ってくるであろう。

しかし、外科診療での日常においてはいまだ高いエビデンスが構築されたものばかりではなく、多くの臨床医のこれまでの経験からコンセンサスが得られて施行されているものもきわめて多いのである。また、特に手術術式に関しては、どのような手術をどのような対象患者さんに行うかについての、evidence level の高いデータとしてのいわゆる randomized control trial を行うことはこれまでもそうであったが、今後もなかなか困難な問題が存在するであろう。

一方で、外科診療においては必ずしも evidence level が十分でないとしても、多くの専門医によって得られたコンセンサスをフェアに討議されたものであれば、十分な推奨度をもってガイドラインに記載していくことも重要であり、また、それがたとえ evidence level が低いからと言って軽視してよいものでないことを多くの方々に知っておいていただくようにすることもガイドライン流行りの時代において大切なことであろう。また、大学など先進的な治療手段を開発していく施設においてはこのガイドラインを超えた診療手段の開発を目指す責務があり、そのことも患者さんを含め多くの医療関係者に強く認識してもらわなければならない点である。

新たな診療手段の開発なくして外科の発展はなく、将来の患者さんにとっての真の利益をもたらし得ないことを医療関係者はもちろん患者さんにも認識してもらうことが大切ではないか。

(宮崎 勝)

臨床外科 (第62巻第7号)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2007年7月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価 2,625 円 (本体 2,500 円+税 5%)
2007 年 年ぎめ予約購読料 38,960 円 (税込)
(送料弊社負担・増刊号を含む 13 冊)

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail: ringe@igaku-shoin.co.jp
担当 田村・鶴淵・中田
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ JICIS < (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物 >
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌を複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。
- ・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・ 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。